

汚染水対策スケジュール (1/2)

分野名	活り	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	12月				1月				2月				3月	4月	備考
			27	3	10	17	24	31	6	下	上	中	下	期			
中長期課題	建屋滞留水処理	<p>【1~4号機 滞留水移送装置】 【3号機 原子炉建屋滞留水移送装置設置】 (実績) ・1~4号機滞留水移送装置運転 ・3号機 原子炉建屋滞留水移送装置A系運転</p> <p>(予定) ・1~4号機滞留水移送装置運転 ・3号機 原子炉建屋滞留水移送装置A系運転 ・3号機 原子炉建屋滞留水移送装置B系設置</p>	現場作業	<p>【1~4号機】滞留水移送装置設置 運転</p> <p>【3号機】原子炉建屋滞留水移送装置設置</p> <p>B系統運用開始▽</p>												<p>2020年10月12日 3号機原子炉建屋滞留水移送ポンプ設置の実施計画変更認可(原規規発第20101210号)</p> <p>2020年12月15日 3号機原子炉建屋滞留水移送装置一部使用承認書受領(原規規発第2012152号)</p> <p>2020年12月21日A系運用開始</p>	
	浄化設備	<p>【既設多核種除去設備】 【高性能多核種除去設備】 【増設多核種除去設備】 (実績) ・処理運転</p> <p>(予定) ・処理運転</p>	現場作業	<p>処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)</p>												<p>処理水及びタンクのインサースビス状況に応じて適宜運転または処理停止</p>	
	浄化設備	<p>【サブドレン浄化設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転</p>	現場作業	<p>処理運転</p>												<p>サブドレン汲み上げ、運用開始(2015.9.3~) 排水開始(2015.9.14~) 前処理フィルタ補修完了(7/14~8/6) 2020年4月27日 サブドレン他浄化設備pH緩衝塔(A系)使用前検査終了証受領(原規規発第20042710号) 2020年10月20日 pH緩衝塔(A系)運用開始</p> <p>2020年12月10日 サブドレン他浄化設備pH緩衝塔(B系)使用前検査終了証受領(原規規発第2012109号)</p>	
	浄化設備	<p>【5/6号機サブドレンの復旧】 (実績) サブドレン設備復旧工事着手(9/7~)</p>	現場作業	<p>運転開始予定(2021年度末)</p>													
	浄化設備	<p>【第三セシウム吸着装置】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転</p>	現場作業	<p>処理運転</p>												<p>2017年7月28日 除染装置関連設備撤去の実施計画変更認可(原規規発第1707283号)</p> <p>2017年9月28日 第三セシウム吸着装置設置の実施計画変更認可(原規規発第1709285号)</p> <p>第三セシウム吸着装置設置コールド試験完了(H30.7月)</p> <p>2019年1月28日 第三セシウム吸着装置使用前検査完了証受領(原規規発第1901286号)</p> <p>2019年7月12日運用開始</p>	
陸側遮水壁	<p>(実績・予定) ・未凍結箇所補助工事は2018年9月に完了 ・維持管理運転2019年2月21日全域展開完了</p>	現場作業	<p>維持管理運転(北側、南側の一部 2017/5/22~、海側の一部 2017/11/13~、海側全域・山側の一部 2018/3/14~、山側全域2019/2/21完了)</p>												<p>2016年3月30日 陸側遮水壁の閉合について実施計画変更認可(原規規発第1603303号)</p> <p>2016年12月2日 陸側遮水壁の一部閉合について実施計画変更認可(原規規発第1612024号)</p> <p>2017年3月2日 陸側遮水壁の一部閉合について実施計画変更認可(未凍結箇所4箇所の閉合:原規規発第1703023号)</p> <p>2017年8月15日 陸側遮水壁の一部閉合について実施計画変更認可(未凍結箇所1箇所の閉合:原規規発第1708151号)</p>		
H4エリアNo. 5タンクからの漏えい対策	<p>(実績・予定) ・汚染の拡散状況把握</p>	現場作業	<p>モニタリング</p>														

汚染水対策スケジュール (2/2)

分野名	活り	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	12月					1月					2月					3月		4月		備考																	
			27					3					10					17					24					31					上		中		下		
			日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		金	土	日	日	月	日	月										
汚染水対策分野	中長期課題	処理水受タンク増設	設計検討	→																																			
				G4南エリア溶接タンク基礎・堰設置工事																												使用前最終検査 ▽	2018年7月5日 G4南エリアにおける中低濃度タンクの撤去等について 実施計画変更認可						
				Eエリアフランジタンク解体工事																													2018年9月10日 Eエリアにおける中低濃度タンクの撤去等について 実施計画変更認可						
				G1エリア溶接タンク基礎・堰設置工事																												使用前最終検査 ▽	2017年10月17日 G1エリアにおける高濃度タンクおよび中低濃度タンク撤去等について 実施計画変更認可						
				H9・H9西エリアフランジタンク解体工事																													2020年7月8日 H9・H9西エリアにおける中低濃度タンク撤去等について 実施計画変更認可						
				→																																			
	中長期課題	現場作業	○千島海溝津波対策 ・防潮堤設置 (実績) 既設設備撤去・移設、造成嵩上げ、L型擁壁設置、ボックスカルバート設置、重力式擁壁設置 全長約600m施工完了(9月25日完了) (予定) 雨水排水設備設置、舗装作業、補強工事	▼L型擁壁等据付完了(9月25日)																																			
				付帯設備等工事																																			
				▼舗装工事等完了																																			
		現場作業	○3.11津波対策 ・建屋開口部閉止 (実績) 閉止箇所数 113箇所/127箇所(1月28日時点) (予定) 外部開口閉塞作業 継続実施	【区分①】 1~3T/B等																																			
				【区分②】 1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B扉等																																			
				【区分③】 1~3R/B扉等																																			
現場作業	○3.11津波対策 ・メガフロート移設【1/20時点】 (実績) 着底マウンド造成:100%、パラスト水処理:100%、内部除染作業:100% メガフロート移設・仮着底:100% 内部充填作業:100% 護岸ブロック製造:100% 据付:80%(266基/333基) (予定) 港湾ヤード整備	補強工事																																					
		→																																					
		護岸工事																																					
工事開始(2019年7月29日) L型擁壁の据え付け開始(2019年9月23日) 防潮堤設置2020年9月25日完了 内閣府公表内容に対して、千島海溝防潮堤の補強、日本海溝津波防潮堤の新設を公表(2020年9月14日)																																							
【区分①】 1~3T/B等2019年3月、全67箇所完了 【区分②】 1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B (2019年3月~2020年3月、全20箇所完了) 【区分③】 1~3R/B扉等 (2019年3月~2020年3月、全20箇所完了) 【区分④】 1~3R/B扉等 (2019年9月~2020年11月、全16箇所完了) 【区分⑤】 1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B (2020年3月~2022年3月、10箇所/24箇所完了)																																							
着底マウンド造成:2019年5月20日開始、2020年2月7日完了 パラスト水処理:2019年5月28日開始、2020年2月20日完了 内部除染:2019年7月16日開始、2020年2月26日完了 メガフロート移設・仮着底:2020年3月4日完了 内部充填:2020年4月3日開始、8月3日完了 護岸ブロック据付:2020年10月2日開始																																							

水処理設備の運転状況、運転計画
(2021年1月22日～2021年2月4日)

2021年1月29日
東京電力ホールディングス株式会社

多核種除去設備

	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)	26(火)	27(水)	28(木)	29(金)	30(土)	31(日)	1(月)	2(火)	3(水)	4(木)
A	停止													
B	←→			停止	←→	停止	←→							
C	停止						←→							

増設多核種除去設備

	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)	26(火)	27(水)	28(木)	29(金)	30(土)	31(日)	1(月)	2(火)	3(水)	4(木)
A	停止													
B	停止													
C	停止													

セシウム吸着装置(KURION), 第二セシウム吸着装置(SARRY), 第三セシウム吸着装置(SARRY2)

	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)	26(火)	27(水)	28(木)	29(金)	30(土)	31(日)	1(月)	2(火)	3(水)	4(木)
SARRY	←→				停止									
SARRY2	停止						←→							
KURION	停止(滞留水の状況に応じて運転を計画, 実施)													

※ 現場状況を踏まえて運転するため、計画を変更する場合があります。

福島第一原子力発電所の滞留水の水位について
(2021年1月22日～2021年1月28日)

2021年1月29日
東京電力ホールディングス株式会社

	原子炉建屋水位				タービン建屋水位				廃棄物処理建屋水位				集中廃棄物処理施設水位			
	1号機	2号機	3号機		4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	プロセス 主建屋	高温焼却炉 建屋	サイトバンカ 建屋
			ポンプエリア	南東エリア												
1月22日	-2073	-2105	-2066	-2228	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-608	546	2698
1月23日	-2066	-2100	-2066	-2135	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-606	376	2698
1月24日	-2074	-2112	-2061	-2067	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-605	119	2698
1月25日	-2081	-2096	-2063	-2187	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-603	-148	2698
1月26日	-2036	-1962	-2061	-2201	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-560	-255	2699
1月27日	-2057	-2107	-2070	-2107	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-517	-16	2698
1月28日	-2052	-2103	-2068	-2049	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-517	193	2698
最下階床面高さ	-2666	-4796	-4796		-4796	443	-1752	-1737	-1739	-36	-1736	-1736	-1736	-2736	-2236	-

備考欄

- ※ T.P.表記(単位:mm)
- ※ 5時時点の水位
- ※ 1号機タービン建屋の滞留水処理完了(2017年3月)
- ※ 1号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2019年3月)
- ※ サイトバンカ建屋水位は、流入量調査のため一時的に水位計の測定下限値以下まで水位低下(2019年4月16日～)
- ※ 3号機原子炉建屋水位は、南東三角コーナー水位が停滞している事から水位変動を監視するため一時的に記載(2019年7月5日～)
- ※ 4号機原子炉建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 2号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 3号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 4号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 2号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 3号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 4号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

各エリア別タンク一覧

1～4号機用汚染水貯蔵タンク

タンク基数、水位、貯蔵量、実容量集約日 2021年1月21日

Table with columns for Area, No., Capacity, Tank Type, Storage Water, H Level, H Capacity, etc. It lists various tanks across different areas (B, C, D, E, G1, G3, G4, G6, G7, H1, H2, H3, H4, H6, H8, H9, H10, J1, J2, J3, J4, J5, J6, J7, J8, J9, K1, K2, K3, K4) and includes radiological concentration data and status.

赤字はアウトオブサービス済の基数
下線部は今回の変更箇所
※1 濃縮塩水/Sr処理水を貯留した実績あり(G3西及びJ1の一部)
※2 Sr処理水を貯蔵した実績のあるタンクを再利用したものを含む 再利用した基数 G3西:30、G3北:6、H8南:8、J1:8、K1南:10、K2:26
※3 再利用に伴う見直し J1:-8(Sr処理水等)、+8(多核種除去設備処理済水)、H8南:-8(Sr処理水等)、+8(多核種除去設備処理済水)

汚染水等構内溜まり水の状況（2021.1.21時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考	
1-1	2号機大物搬入口屋上	・2号機大物搬入口屋上	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2階】 Cs134: <1.0E1 Cs137: 2.1E1 全β: 2.6E1 H3: 1.0E2 (2015.11.2) 【1階】 Cs134: 1.1E1 Cs137: 4.0E1 全β: 4.1E1 H3: 1.1E2 (2015.11.2)		
1-2	2号機R/B	2号機R/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【上屋】 Cs134: 200~340 Cs137: 650~1100 全β: 920~1900 Sr90: 10~20 H3: ND (<100) (2015.1.16)		
2	5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	・5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	6号機北側	約10,400 (2020.12時点)	Cs134: 2.9E0 Cs137: 5.1E1 (2020.11.11)	2.0E0 5.5E1 (2020.12.10)	5-6号建屋滞留水・RO処理水を貯留 (5-6号機建屋滞留水処理設備として運用中のため、量は変動する)
3	5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	・5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約6,000 (2020.12時点)	Cs134: 7.7 Cs137: 4.3E1 (2016.10.3)		5-6号建屋滞留水を貯留
4-1	吸着塔一時保管施設(HIC)	・吸着塔一時保管施設(第二施設、第三施設)	・吸着塔一時保管施設(第二施設、第三施設)	0 (ボックスカルバート内の水は拭き取り実施済み、HIC内上澄み水抜き実施済み) (2018.9)	—		水抜き済
4-2	吸着塔一時保管施設	水処理二次廃棄物(SARRY、KURION、ALPS処理カラム、モバイル式処理装置)	吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	1程度(1基あたり)	Cs137: 2.0E3~1.6E7 Sr90: 5.3E3~4.3E7 (2017.2~2017.3)		
5	No.1ろ過水タンク(RO濃縮塩水/溶接タンク)	・No.1ろ過水タンク(RO濃縮塩水/溶接タンク)	屋外(タンクエリア)	0 (2015年8月水抜き完了)	—		過去、RO濃縮水を貯留 現在は水抜き済
6	4000tノッチタンク(角型タンク)	・4000tノッチタンク	タンクエリア	0 (2018.5.7時点)	【3000tノッチタンク】 撤去済 【1000tノッチタンク】 水抜き済		水抜き済
7	濃縮水タンク(蒸発濃縮装置濃廃水)	蒸発濃縮装置濃縮水用ノッチタンク(スラリー/濃縮水)	タンクエリア(Cエリア)	約65※1 (2019.2.1時点)	【蒸発濃縮装置濃廃水】 Cs134: 1.7E4 Cs137: 2.5E4 全β: 4.7E8 (2011.12.20)		蒸発濃縮装置濃縮水を貯留 ※1: 全5タンクの水量を 実測して算出
8	淡水貯留タンク(G1エリア地下タンク)	・淡水貯留タンク(横置きタンク)	タンクエリア	— (2017.8時点)	—		撤去済
9	5、6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット	・5号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	5号機スクリーン近傍	約550	Cs134: ND Cs137: 3.4E0 (2016.10.5)		
		・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	6号機スクリーン近傍	約850	Cs134: ND Cs137: 3.7E0 (2016.10.5)		
		・5号機逆洗弁ピット	5号タービン建屋海側	約1,500	Cs134: 3.0E0 Cs137: 1.9E1 (2016.10.3)		
		・6号機逆洗弁ピット	6号タービン建屋海側	約1,500	Cs134: 1.5E0 Cs137: 1.1E1 (2016.10.3)		

汚染水等構内溜まり水の状況（2021.1.21時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
10	1～4号機T/B屋根	・1号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs134:ND Cs137:3.6E1 (2020.10.12) 全β: 4.4E1 (2020.7.29)	
		・2号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2号機T/B上屋】 Cs134:ND Cs137:4.7E1 (2020.10.12) 全β: 8.9E0 (2020.7.29)	
11	1号CSTタンク (溶接タンク)	・1号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約740 (2016.10.26)	Cs134:2.9E+4 Cs137:1.9E+5 全β: 2.2E+5 (2016.11.7)	RO処理水を貯留
12	2号CSTタンク (溶接タンク)	・2号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,850 (2020.3.19)	【CST入口水(淡水化装置出口水)】 H3: 3.8E5 Sr90: ND (2020.10.6) 3.8E5 ND (2020.11.24) 【2号CSTタンク貯留水】 Cs134: 1.6E+02 Cs137: 1.7E+03 (2018.12.14) 全β: 1.5E+03 (2018.12.19)	2020.3.18より炉注水源としての運用開始(1～3号機CST炉注水ポンプ水源として運用中のため、量は変動する)
13	3号CSTタンク (溶接タンク)	・3号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,800 (2020.1.16)	【3号CSTタンク貯留水】 Cs134: 1.9E+2 Cs137: 3.5E+3 全β: 6.3E+3 H3: 7.5E+5 (2020.7.16)	RO処理水を貯留(1～3号機CST炉注水ポンプ水源として運用中のため、量は変動する)
14	4号CSTタンク (溶接タンク)	4号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	0	—	水抜き済
15	地下貯水槽	地下貯水槽No. 1	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.3E6 (2018.9.12) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 8.1E3 (2020.12.8) H3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
16	地下貯水槽	地下貯水槽No. 2	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.1E6 (2018.9.12) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 1.0E4 (2020.12.9) H3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
17	地下貯水槽	地下貯水槽No. 3	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.2E6 (2018.9.11) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 4.2E3 (2020.12.11) H3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
18	地下貯水槽	地下貯水槽No. 4	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 2.8E4 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
19	地下貯水槽	地下貯水槽No. 5	タンクエリア	撤去完了	【使用実績なし(水張試験のみ)】 —	撤去済
20	地下貯水槽	地下貯水槽No. 6	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 7.8E6 (2018.9.11) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 4.5E1 (2019.9.5) H3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)

汚染水等構内溜まり水の状況（2021.1.21時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
21	地下貯水槽	地下貯水槽No. 7	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 1.5E2 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
22	1-4号建屋接続トレンチ	・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト(2号機廃棄物系共通配管ダクト) ・1号機薬品タンク連絡ダクト 等	1~4号機周辺	約1~170 (2019.12)	Cs134: ND~4.2E2 Cs137: 2.5E2~6.9E3 全β: 2.2E2~3.4E3 H3: ND~3.5E3 (2019.12)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1) 「2019年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照
23	2~4号機DG連絡ダクト	・2~4号機DG連絡ダクト	2~4号機山側	約1,600 (2019.12)	Cs134: 1.1E1 ND Cs137: 1.6E2 8.7E1 全β: 1.9E2 1.0E2 H3: ND ND (2019.12.18) (2020.12.18)	
24-1	1号機海水配管トレンチ	・1号機海水配管トレンチ	1号機タービン建屋海側	約400 (2019.12)	Cs134: ND Cs137: 6.2E1 全β: 9.3E1 (2019.12.20)	
24-2	2号機海水配管トレンチ	・2号機海水配管トレンチ	2号機タービン建屋海側	0 (2019.8.2時点)	—	水抜き・充填済 (建屋接続部近傍を含む)
25-1	3号機海水配管トレンチ	・3号機海水配管トレンチ	3号機タービン建屋海側	0 ^(注) (2015.7.30時点) <small>(注) 立抗D上部に水が無いことを確認(2019.12.2時点)</small>	—	充填済 (立抗D上部を除く) 立抗D上部充填作業一時中断中
25-2	4号機海水配管トレンチ	・4号機海水配管トレンチ	4号機タービン建屋海側	0 ^(注) (2015.12) <small>(注) 建屋接続部及び建屋接続部近傍の開口部に水が無いことを確認(2019.9.27時点)</small>	—	充填済 (建屋接続部近傍及び建屋接続部近傍の開口部を含む)
26	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	・3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機山側	約830 (2019.12)	Cs134: 4.8E1 Cs137: 4.0E2 全β: 4.4E2 H3: ND (2017.10)	
27	廃棄物処理建屋間連絡ダクト	・廃棄物処理建屋間連絡ダクト	プロセス主建屋北側	充填完了		充填済
28	1-4号建屋未接続トレンチ	・2号機変圧器防災用トレンチ ・消火配管トレンチ(3号機東側) ・1号機主変圧器ケーブルダクト ・1号機廃液サーージタンク連絡ダクト ・1号機オフガス配管ダクト 等	1-4号機周辺	約1~830 (2018.12)	Cs134: ND~2.3E1 Cs137: 7.0E0~2.7E2 全β: 5.4E1~7.2E2 H3: ND~1.7E3 (2018.11~2019.1)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(2) 「2018年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照
29	1~4号機サブドレンピット No.15,16(未復旧ピット)	・サブドレンピットNo.15,16	1~4号機周辺 「未復旧」	約20	【No.16】 Cs134: 5.7E3 Cs137: 1.3E5 全β: 1.5E5 H-3: 3.1E2 (2020.11.20)	
30	その他1~4号機サブドレン(ディーブウェル含む)(未復旧ピット)	・1号機~4号機サブドレン	1~4号機周辺 「未復旧」	約15/ピット	【No.47.48】 Cs134: ND~3.9E1 Cs137: 4.8E1~9.6E1 全β: 7.9E1~2.8E2 H-3: ND (2014.11.10)	

汚染水等構内溜まり水の状況（2021.1.21時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
31-1	1~4号機逆洗弁ピット	・1号機逆洗弁ピット	1号タービン建屋海側	0 (2020.6.30)	—	水抜き・充填済
		・2号機逆洗弁ピット	2号タービン建屋海側	0 (2020.8.27)	—	水抜き・充填済
		・3号機逆洗弁ピット	3号タービン建屋海側	0 (2019.3.28)	—	水抜き・充填済
		・4号機逆洗弁ピット	4号タービン建屋海側	約1,400 (2018.12.12) 0 ^(注) (2021.1.20) (注)残水あり	Cs134: 5.0E1 Cs137: 1.0E3 全β: 1.1E3 H3: ND (2020.11.13)	可能な範囲で水抜き済、今後予定している充填時に残水処理予定
31-2	1・4号機吐出弁ピット	・1号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	1号タービン建屋海側	0 (2015.11)	—	水抜き・充填済
		・4号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	4号タービン建屋海側	0 (2015.10)	—	水抜き・充填済
32	1号機放水路 (出口を閉塞済)	・1号機放水路 (出口を閉塞済)	1~4号タービン建屋海側	約4,200 (2018.12.17)	【放水路上流側立坑】 Cs134: 1.5E2 1.2E2 Cs137: 3.3E3 2.9E3 全β: 4.0E3 3.8E3 H3: ND ND (2020.12.14) (2021.1.18)	
33	2号機放水路 (出口を閉塞済)	・2号機放水路 (出口を閉塞済)	2~4号機タービン建屋海側	約3,600 (2018.12.14)	【放水路上流側立坑】 Cs134: 3.9E1 3.2E1 Cs137: 6.9E2 7.4E2 全β: 9.5E2 9.7E2 H3: ND 1.1E2 (2020.12.14) (2021.1.18)	
34	3号機放水路 (出口を閉塞済)	・3号機放水路 (出口を閉塞済)	3~4号機タービン建屋海側	約1,600 (2018.12.17)	Cs134: 2.8E1 1.5E1 Cs137: 4.2E2 4.3E2 全β: 5.3E2 5.2E2 H3: ND 1.2E2 (2020.11.4) (2020.12.9)	
35	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4,500	Cs134: 7.2 Cs137: 23 I-131: <4.3 Co-60: <4.2 全γ放射能: 3.1E1 (2014.5.23)	
36	5号CSTタンク (溶接タンク)	・5号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,040 (2020.9.10)	Cs134: ND ND ND Cs137: ND ND ND Co60: 2.3E2 2.3E2 (2020.11.16) (2020.12.10)	プラント保有水を貯留(プラント系統として運用中のため量は変動する)
37	6号CSTタンク (溶接タンク)	・6号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,630 (2020.9.10)	Cs134: ND ND ND Cs137: ND ND ND Co60: ND ND ND (2020.11.12) (2020.12.11)	プラント保有水を貯留(プラント系統として運用中のため量は変動する)
38	5/6号他 トレンチ	・5号機海水配管トレンチ ・5・6号機スチームドレン配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト 等	5~6号機周辺	約1~1,900 (2015.10~2016.1)	Cs134: ND~2.2E2 Cs137: ND~9.9E2 (2015.10~2016.1)	
39	5, 6号機サブドレン	・5,6号機サブドレンピット	5~6号機周辺 ※「復旧対象」	約15/ピット	Cs134: ND Cs137: ND~3.5 全β: ND~4.8 H-3: ND~140 (採水期間: 2017.10~2018.3) <各ピット混合水> Cs134: ND Cs137: 4.3E-1 全β: ND H-3: 4.0E0 (2020.1.28)	

汚染水等構内溜まり水の状況（2021.1.21時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考	
40	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ピット	Cs134: 1.0E+1 Cs137: 1.4E+1 Co-60: <6.0E-01 全γ放射能: 2.4E+1 (2012.1.18)		
41	SPTタンク(1~4号)(A) (溶接タンク)	・SPTタンク(1~4号)(A) (溶接タンク)	SPT建屋	約2,800 (2015.3.25時点)	Cs134: 8.0E+4 Cs137: 1.6E+5 Co60: 6.5E+2 (2013.8.27)	プラント保有水等を貯留	
42	集中ラド周りサブドレン	・集中ラド周りサブドレン	主プロセス建屋等 各建屋周辺	約15/ピット	Cs134: ND Cs137: ND~5.4E1 (2020.11.18)	ND ND~5.8E1 (2021.1.20)	
43	メガフロート	・メガフロート	港湾内	0 (2020.2.20)	No.5VOID Cs134: ND Cs137: 2.7 Sr90: ND H3: ND (2017.2.16)	水抜き完了	
44	純水タンクNo.1	・純水タンク	屋外(建屋エリア)	約850	Cs134: 2.1 Cs137: 7.2 全β: 12.2 H-3: ND (2015.5.29)	震災後、坂下ダム補給水を貯留	
45	5/6号機建屋滞留水	・5/6号機建屋滞留水	5~6号機	約5,500 (2020.12.10時点)	【5号機】 Cs134: ND Cs137: 5.3E-1 H3: ND 全β: ND (2020.11.12)	ND ND ND ND (2020.12.14)	
					【6号機】 Cs134: ND Cs137: 3.0E0 H3: ND 全β: ND (2020.11.13)	ND 4.1E0 ND ND (2020.12.15)	
46	排気筒ドレンサンブピット	・1/2号排気筒ドレンサンブピット	1~4号機周辺	約0.3 [※] <small>※適宜溜まり水の移送を実施</small>	全β: 9.3E6 Cs134: 3.7E5 Cs137: 8.1E6 (2020.10.28)	8.8E6 4.2E5 9.8E6 (2020.12.25)	2019.10.12以降に水位低下傾向が見られることを確認。 (2019.11.27)
		・3/4号排気筒ドレンサンブピット	1~4号機周辺	約2	全β: 7.8E2 Cs134: 3.7E1 Cs137: 5.8E2 (2019.12.24)	2.3E3 9.5E1 1.8E3 (2020.12.23)	
		・5/6号排気筒ドレンサンブピット	5/6号機周辺	約7.6 (2020.3.12)	全β: 2.2E1 Cs134: ND Cs137: 2.0E1 (2020.3.12)		
		・集中RW排気筒ドレンサンブピット	1~4号機周辺	約10	全β: 2.7E2 Cs134: ND Cs137: 2.2E2 (2020.5.20)		
47	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫 (6~8号棟)	約200	Cs-134: ND Cs-137: 5.3E+1 全β: 4.8E+1 (2017.11.10)		
48	5,6号機海側屋外既設タンク	SPTタンク(5~6号)	物揚場 北側	<タンク> 0 (2019.11.21) <雨仕舞> 0 (2019.12.5) <ポンプ室> 0 (2019.12.12)	—	水抜き完了	
49	5号R/B西側ヤードドラム缶	ステンレス製ドラム缶(内袋付)	5号R/B西側 ヤード (水素ガストレー ラーエリア)	約13	Cs134: ND Cs137: 1.4E+1 Sr90: ND H-3: ND 全β: 1.1E+01 Co60: ND (2019.5.29)		

タンク建設進捗状況

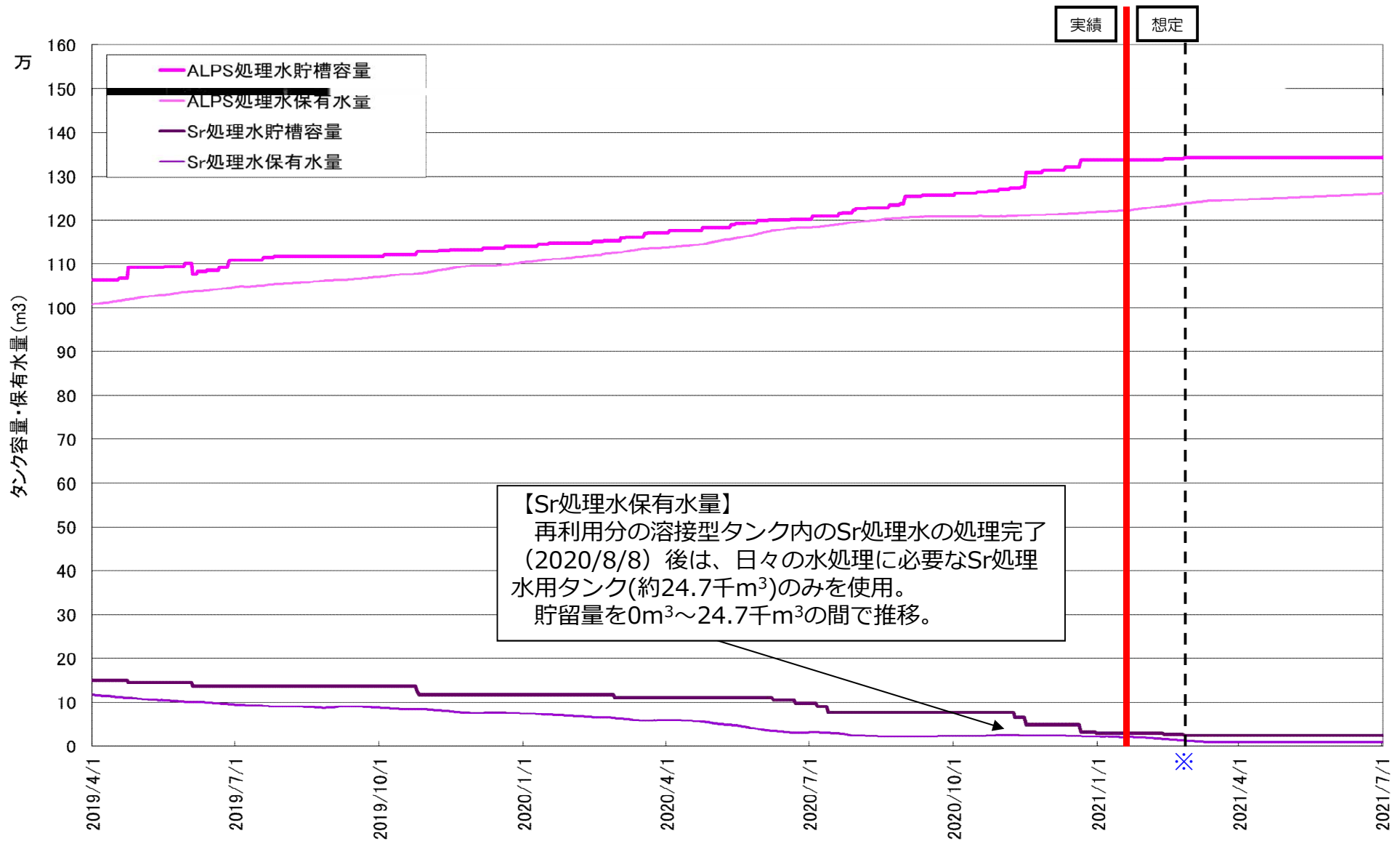
2021年1月28日



東京電力ホールディングス株式会社

1-1. タンク容量と貯留水量の実績と想定

水バランスシミュレーション (サブドレン他強化+陸側遮水壁の効果)



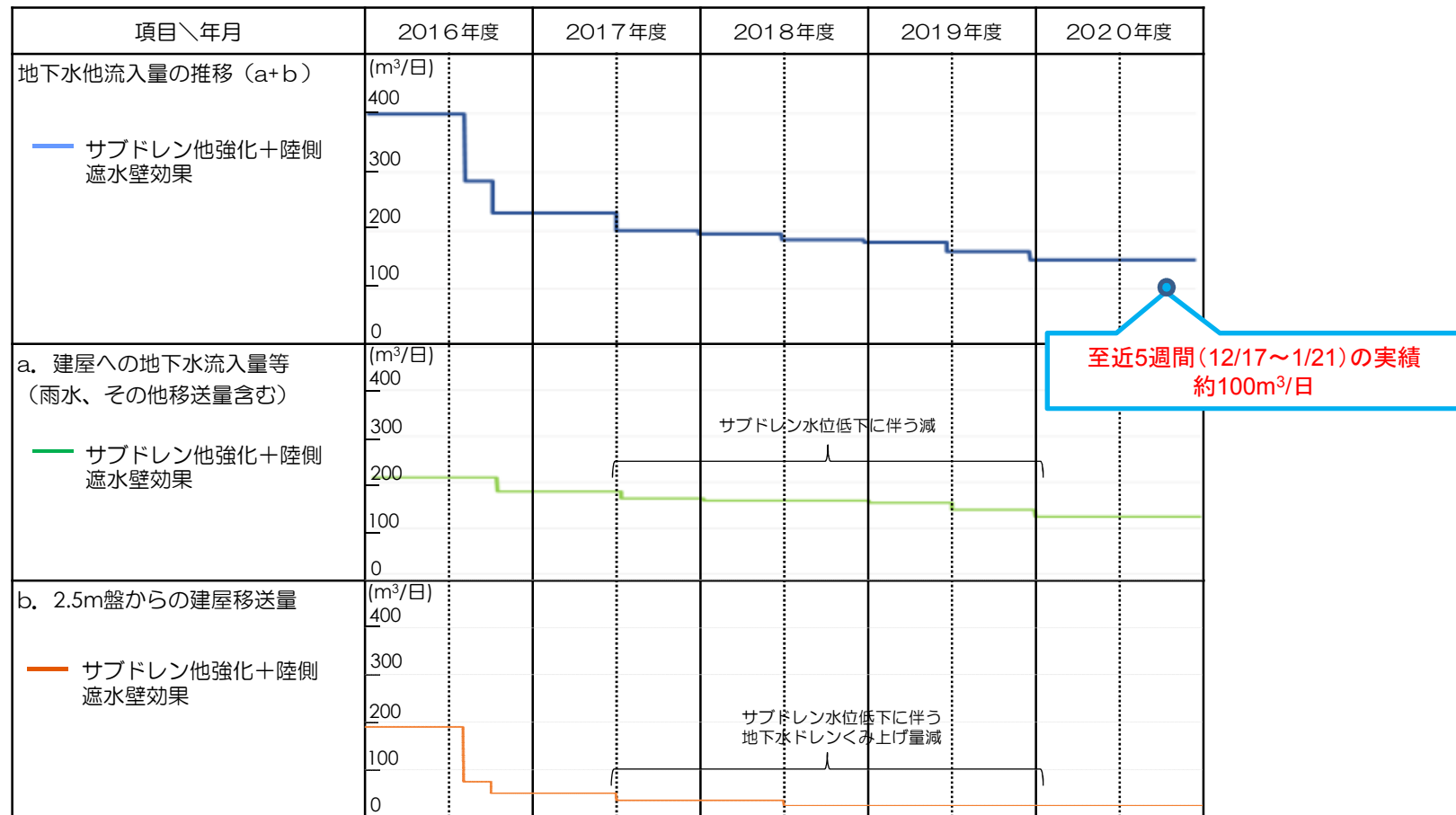
※：タンク残水処理 (残り3基分) が2021年2月に完了予定

1-2. 貯留水量の想定に用いる地下水他流入量の想定条件と至近の実績



水バランスシミュレーションの前提条件

➤ サブドレン+陸側遮水壁の効果を見込んだケース



2-1. 溶接タンク建設状況

タンクリブレースによる溶接タンク建設容量の計画と実績は以下の通り（～2021年3月）

溶接タンクの月別建設計画と実績

下線は計画

単位：千m³

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
2019	26.9	10.0	31.0	9.1	0	0	11.9	4.0	6.6	7.9	5.3	10.6	123.3
2020	13.2	10.6	2.7	11.9	9.3	2.6	14.5	10.6	6.6				82.0

タンク容量の確保計画と実績（全体※1）

	計画 (2020.12.31時点)	実績 (2020.12.31時点)	タンク容量確保目標 2020.12.11 タンク容量の確保目標を達成
タンク総容量	約1,368千m ³	約1,271千m ³ (約1,368千m ³ ※2)	

※1：水位計0%以下の容量（約2.2千m³）及び日々の水処理に必要なSr処理水用タンク（約24.7千m³（既設置））を含む

※2：Sr処理水用タンクからALPS処理水用タンクとして再利用する分（約97千m³（既設置））を含む

2-2. タンク進捗状況

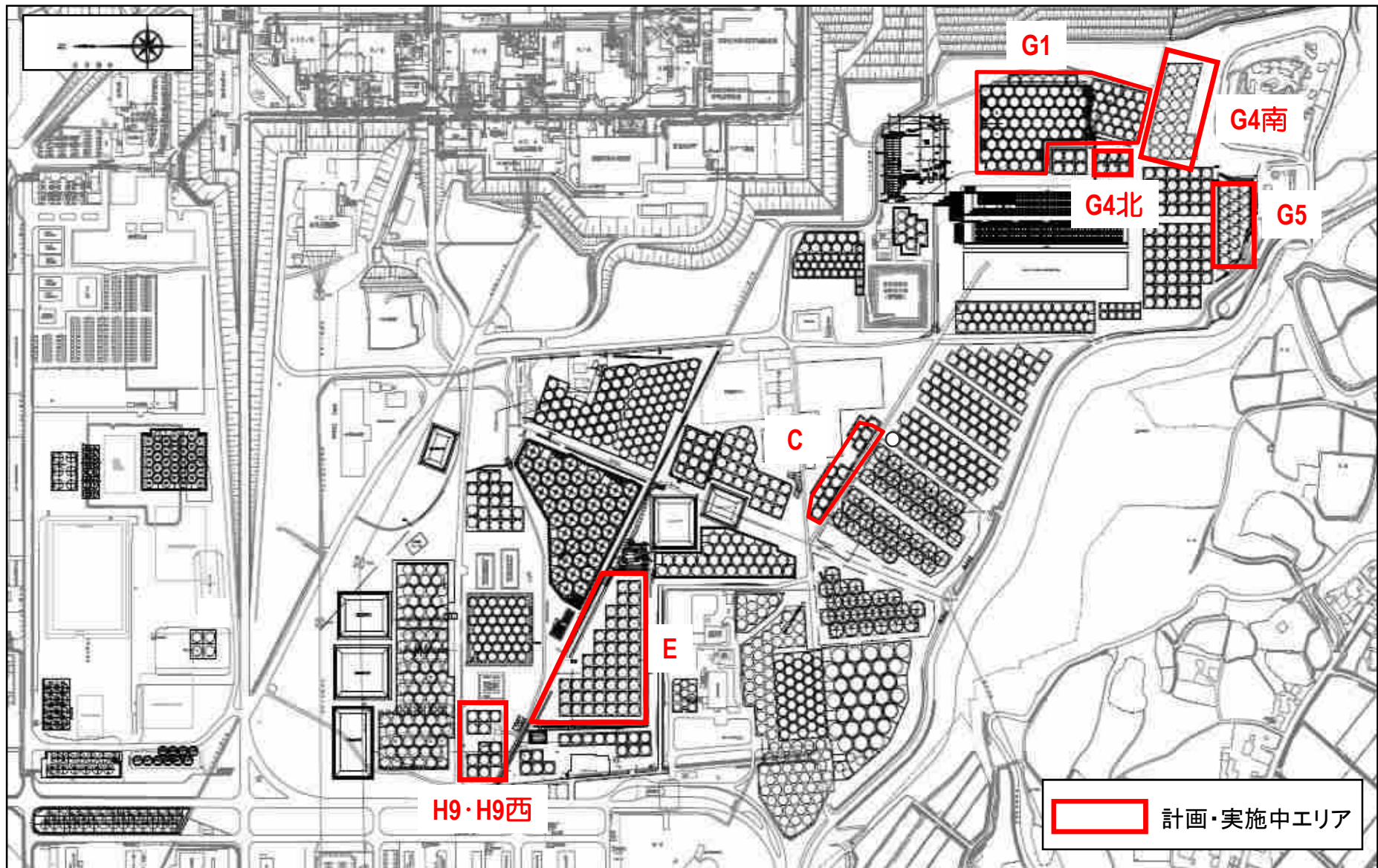
1. タンク建設・解体関係

エリア	全体状況
C	2020/10/5 フランジタンク解体作業完了 堰内防水塗装除染・撤去等実施中
E	フランジタンクの解体作業中 堰内防水塗装除染・撤去等実施中
G1	2019/2/27 鋼製横置きタンク撤去完了。 2019/4/1 溶接タンク設置開始。 2020/2/3 基礎構築完了 2020/12/11 タンク設置完了 外周堰構築中
G4南	2018/9/13 フランジタンクの解体作業着手。 2019/3/21 フランジタンク解体・撤去完了。 2019/12/1 溶接タンク設置開始 2020/3/4 基礎構築完了 2020/12/10 タンク設置完了 外周堰構築中
G4北・G5	2020/10/7 フランジタンク解体作業完了 堰内防水塗装撤去等実施中
H9・H9西	2020/11/18 フランジタンクの解体作業着手

2. 実施計画申請関係

エリア	申請状況
-----	------

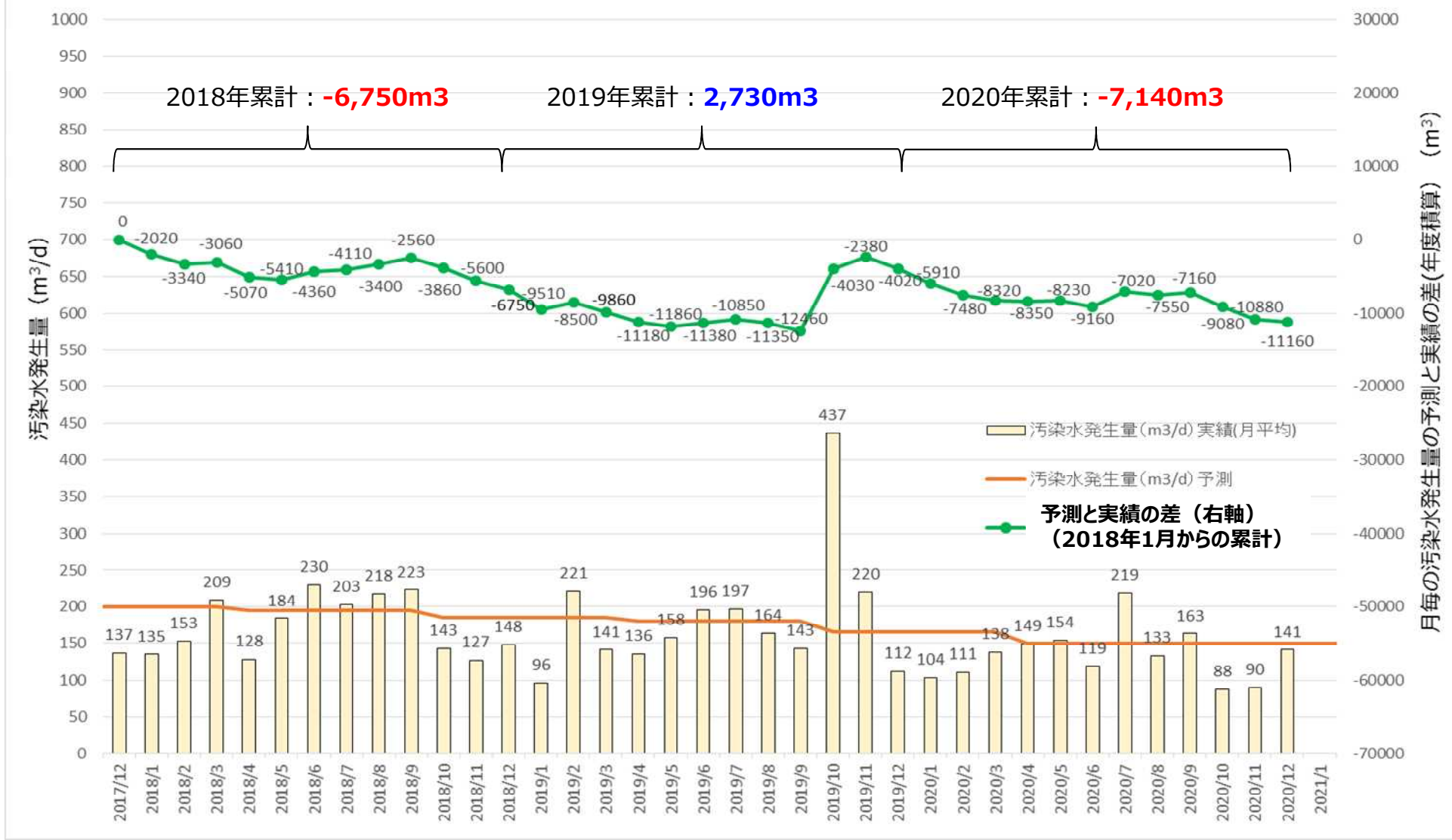
【参考】タンクエリア図



【参考】 予測と実績の比較 (2020/12末)



汚染水発生量の予測と実績の比較



1/2号機排気筒ドレンサンプピットの対応について

2021年1月29日



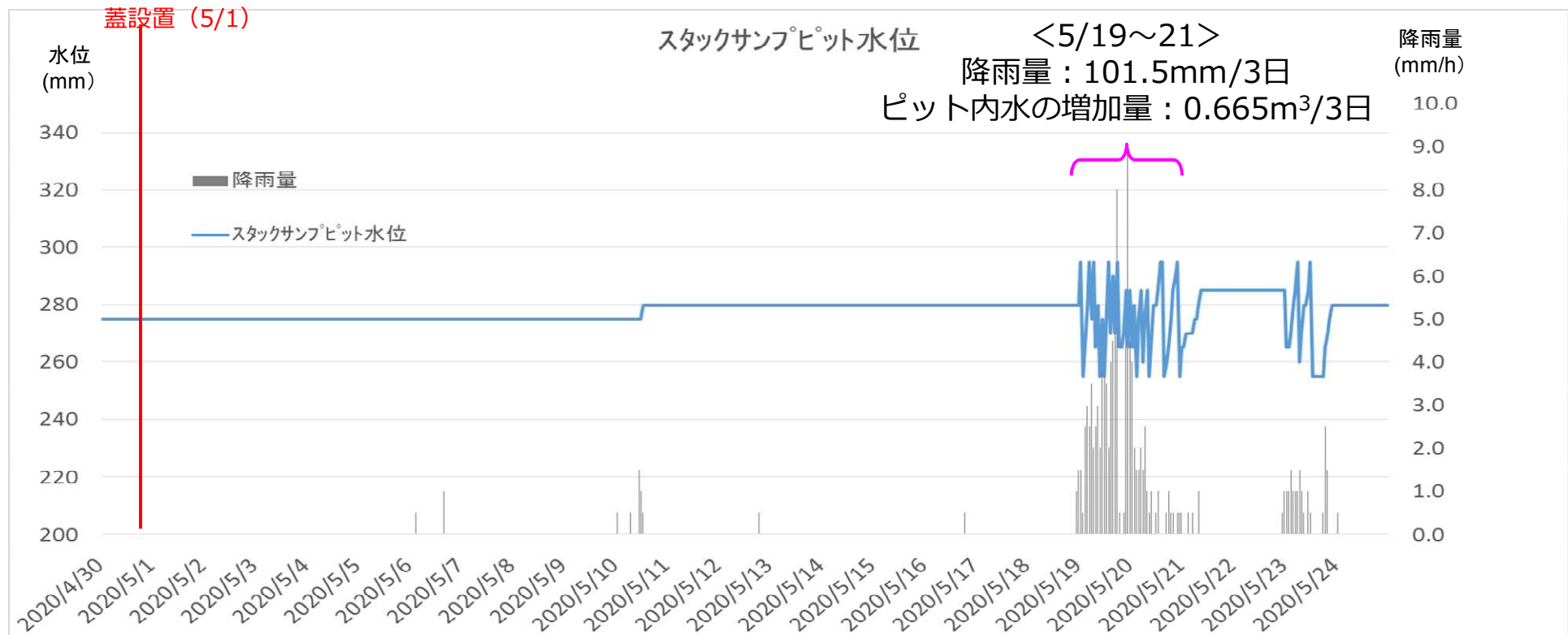
東京電力ホールディングス株式会社

1. 1 / 2号機排気筒ドレンサンプピットの雨水流入について



- 1 / 2号排気筒の解体が完了し、2020年5月1日に排気筒上部に蓋を設置。排気筒上部の開口は約99%閉塞された（蓋設置前：約8m²、蓋設置後：約0.1m²※）ものの、降雨時にピット内の水位の上昇が確認されたため、流入経路の調査を実施した（2020年7月）。
- 調査の結果、ピットの南側から雨水が流れ込んでいると思われる痕跡を確認した。雨養生カバー南側面の開口からピット上部に雨水が入り、主にピット南側から流入しているものと推定した。
- 対策として雨養生カバー南側開口部へのカバー追設を2020年12月23日に行ったが、2020年12月30日および2021年1月12日にピット内の水位上昇を確認した。
- なお、排水ポンプ起動時以外の水位の低下は見られておらず、系外への流出はない。

※蓋側面切欠部と筒身段差部が重なる部分の面積。なお、蓋上部は可能な限り止水処理しており、雨水の流入はほぼ抑制できていると想定



2. 雨水流入対策 カバー追設状況

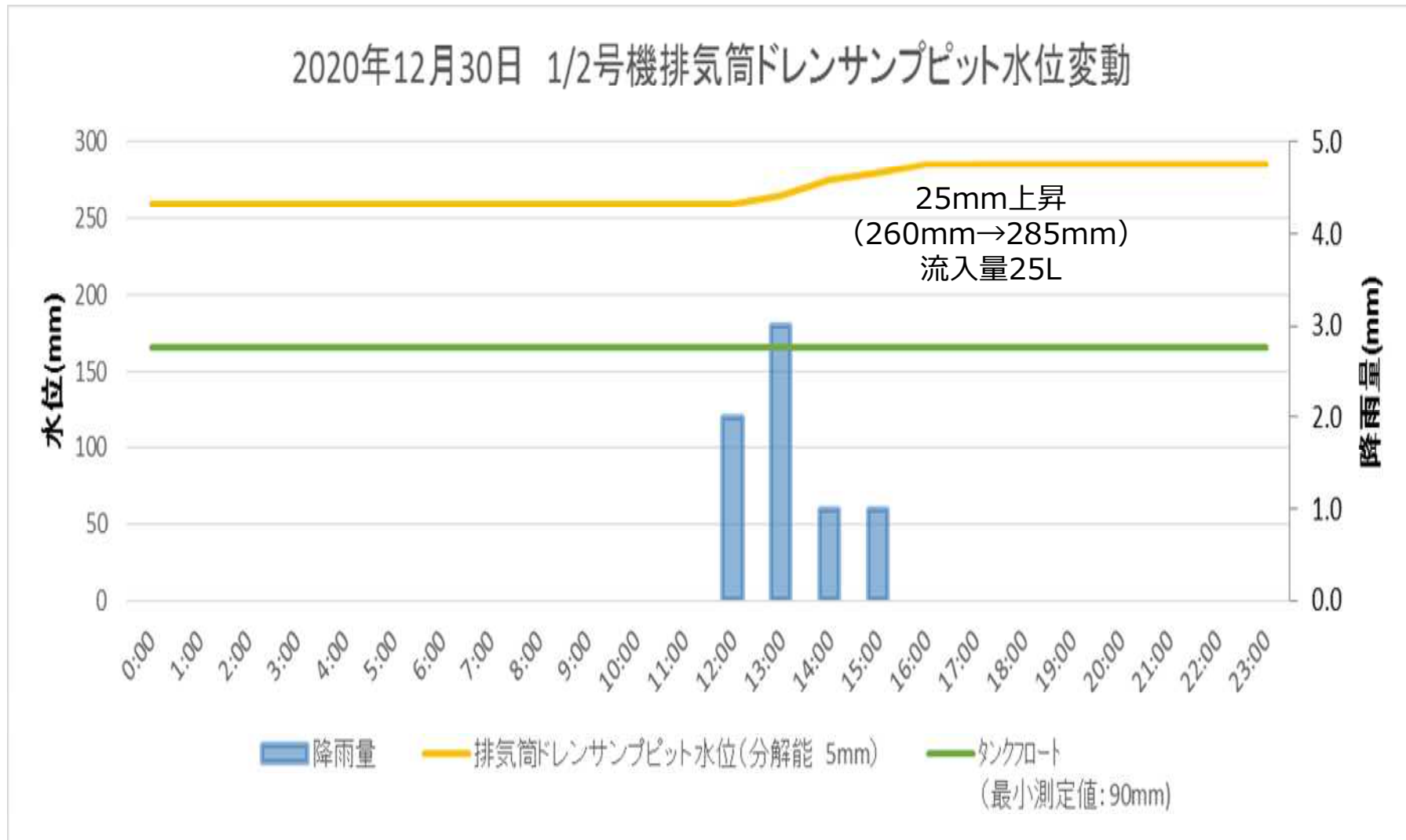


設置前

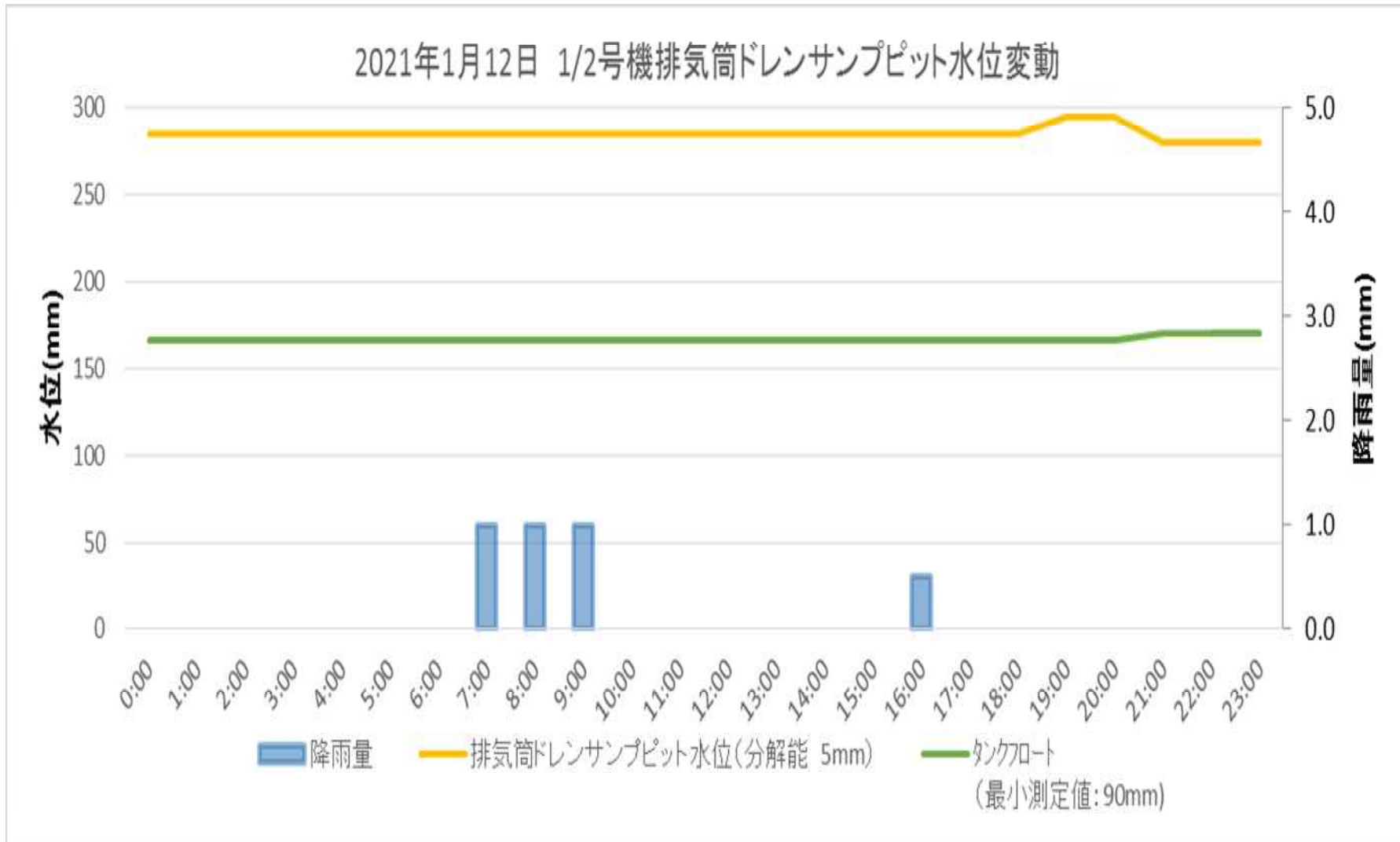


設置後

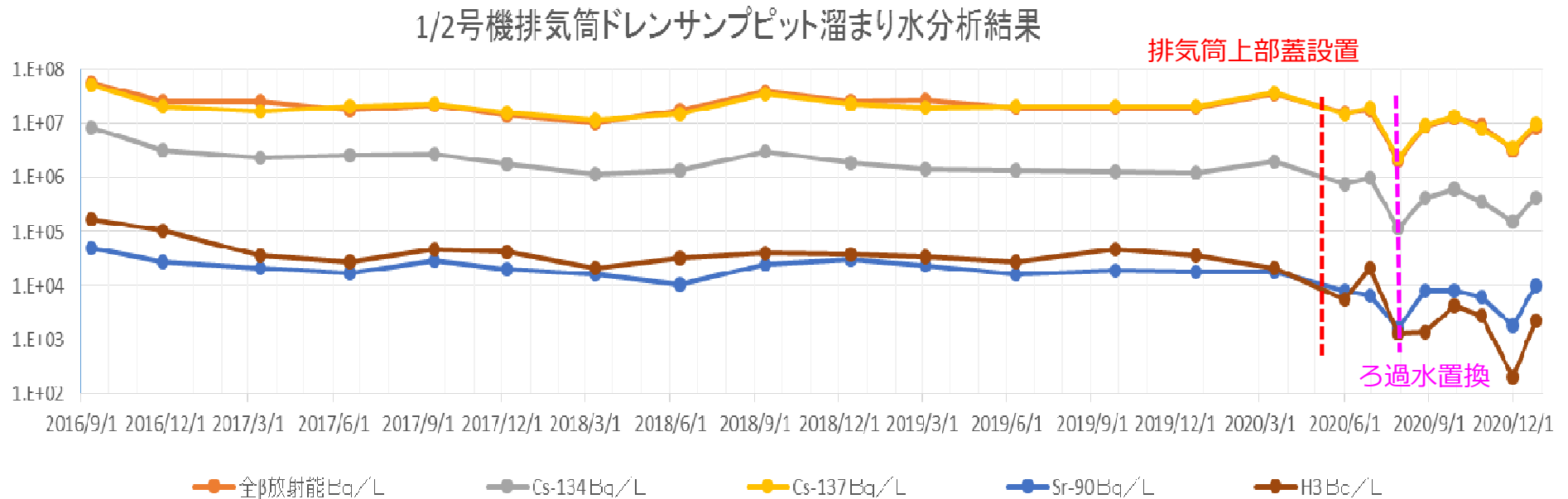
3. 水位データ



3. 水位データ



4. 1 / 2号機排気筒ドレンサンプルピット水質分析結果



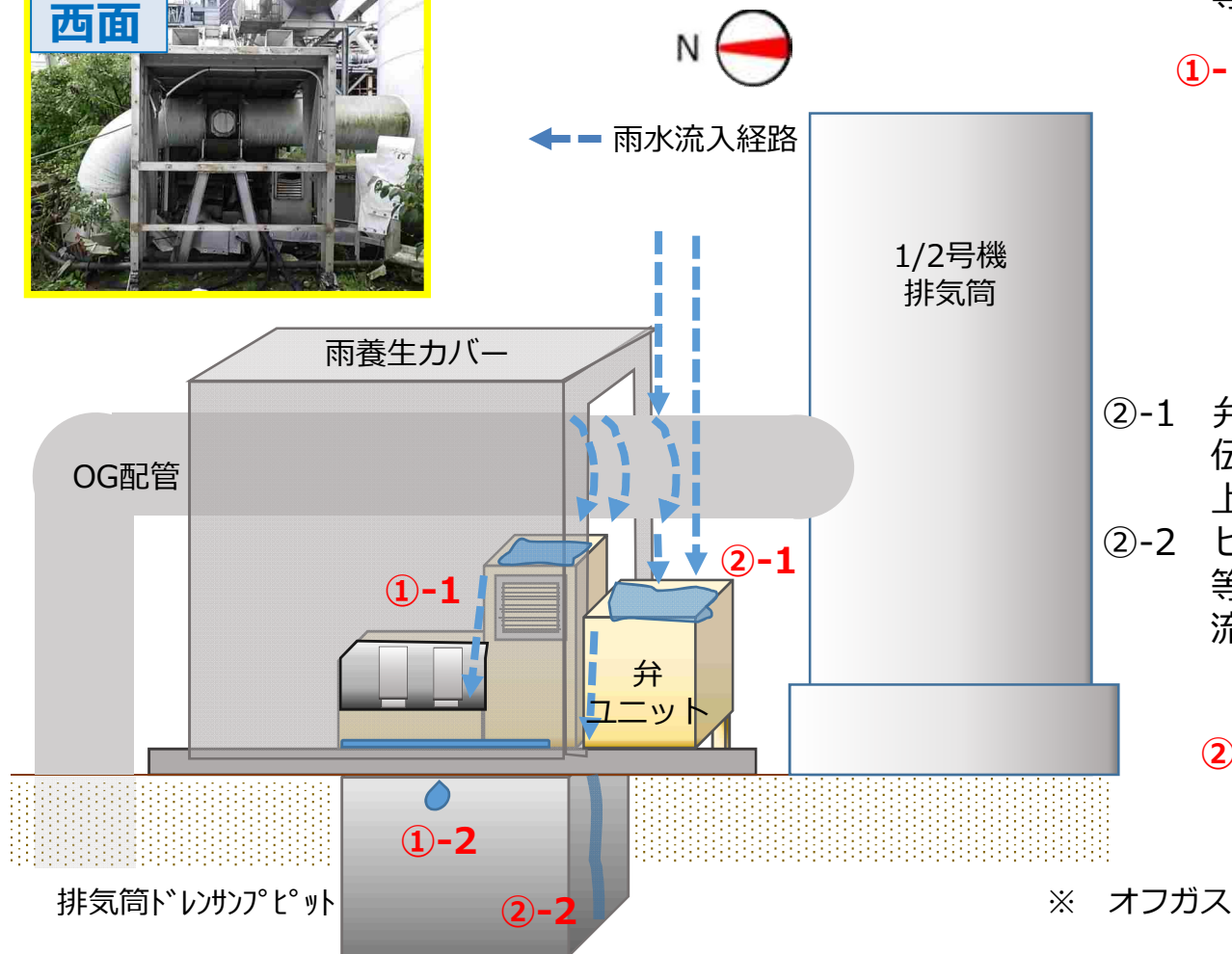
- 7月29日にほぼろ過水で置換した後、濃度が一時的に上昇したが、その後は下がり傾向が見られ、12月に再度上昇している。
- 濃度の下がり傾向は、雨水の流入により、ピット周辺やピット内、移送系統内の放射能の付着が徐々に減ってきている可能性が考えられる。
- 排気筒蓋設置前には見られなかった傾向であり、排気筒蓋設置により排気筒内部からの放射能の流入がなくなった可能性が考えられる。
- 引き続き分析を行い、傾向を分析していく。

5. 今後の予定

- 追設した雨養生カバーの効果について、降雨時の水位データを蓄積して検証する。
- 雨水の流入によりピット内の放射能濃度が低下している傾向がみられることから、引き続き濃度の分析を行い、排気筒上部蓋の効果について検証する。
- 今回雨水流入対策をした箇所とは別に雨水流入経路がある可能性があることから、流入経路の調査方法を検討する。調査については、雨水流入抑制や放射能濃度低下の効果の検証結果も踏まえ、必要性等について検討していく。

<参考> 雨水流入イメージ (想定)

- 7月14日の内部調査でピット内上部に水滴が確認されたことから、7月15日に外部の状況確認を行った。
(降雨量 : 0.5mm/h)



- ①-1 OG*配管を伝いピット上部へ流入
- ①-2 ピット天板の隙間 (コーキングの劣化等) から内部へ流入し滴下したと推定



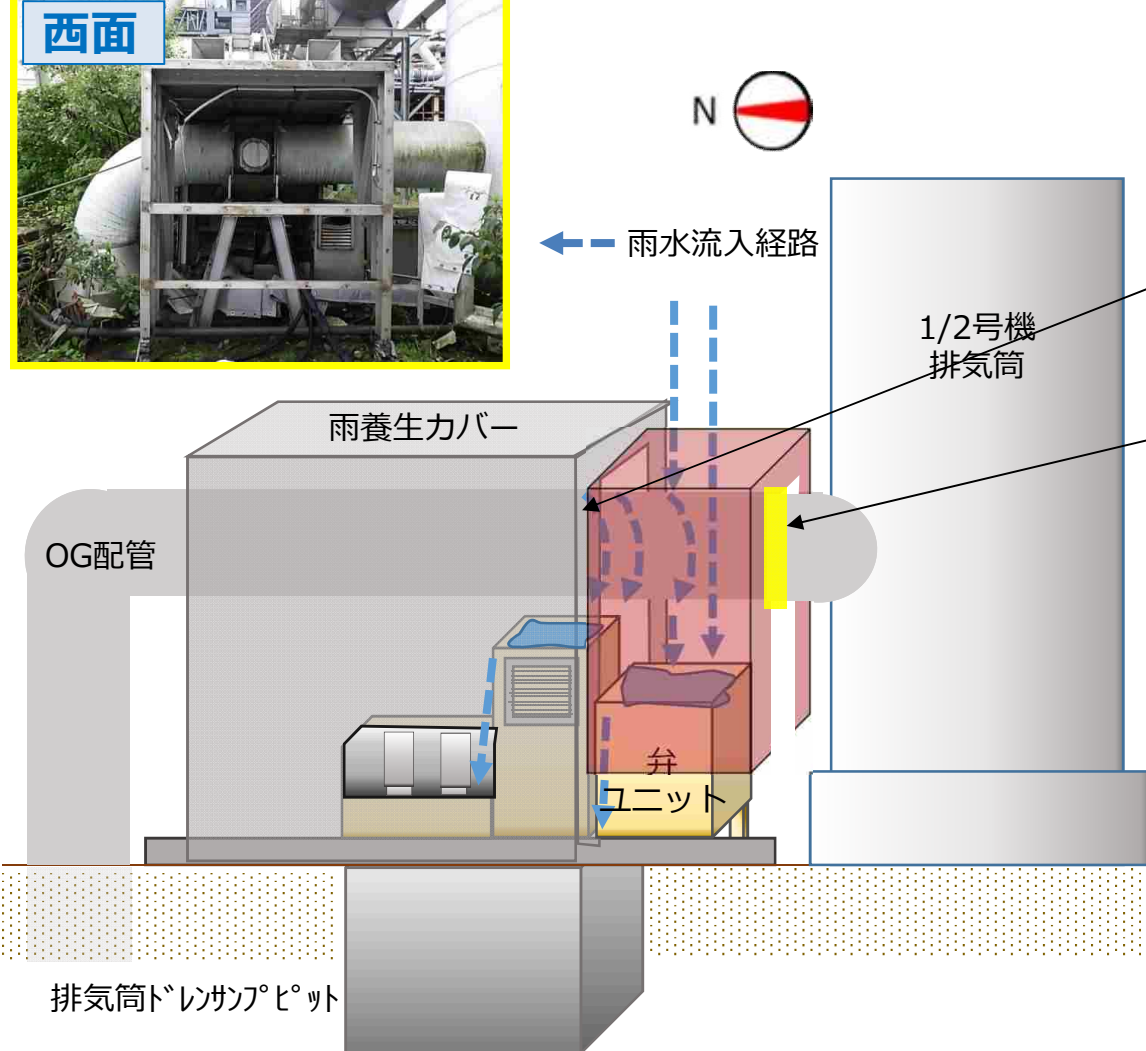
- ②-1 弁ユニットに直接 (または配管を伝い) 雨があたり、主に南側のピット上部へ流入
- ②-2 ピット天板の隙間 (コーキングの劣化等) から内部へ流入し、南側壁面より流れたと推定




<参考> 雨水流入対策

- 雨水流入経路と思われる雨養生カバーの南面に流入対策用カバーを追設する。

実施時期：2020年12月 施工予定



流入対策用カバー ()
 寸法：1200×1700×2185
 材質：亜鉛メッキ鋼板

既設の雨養生カバーにボルトで固定。

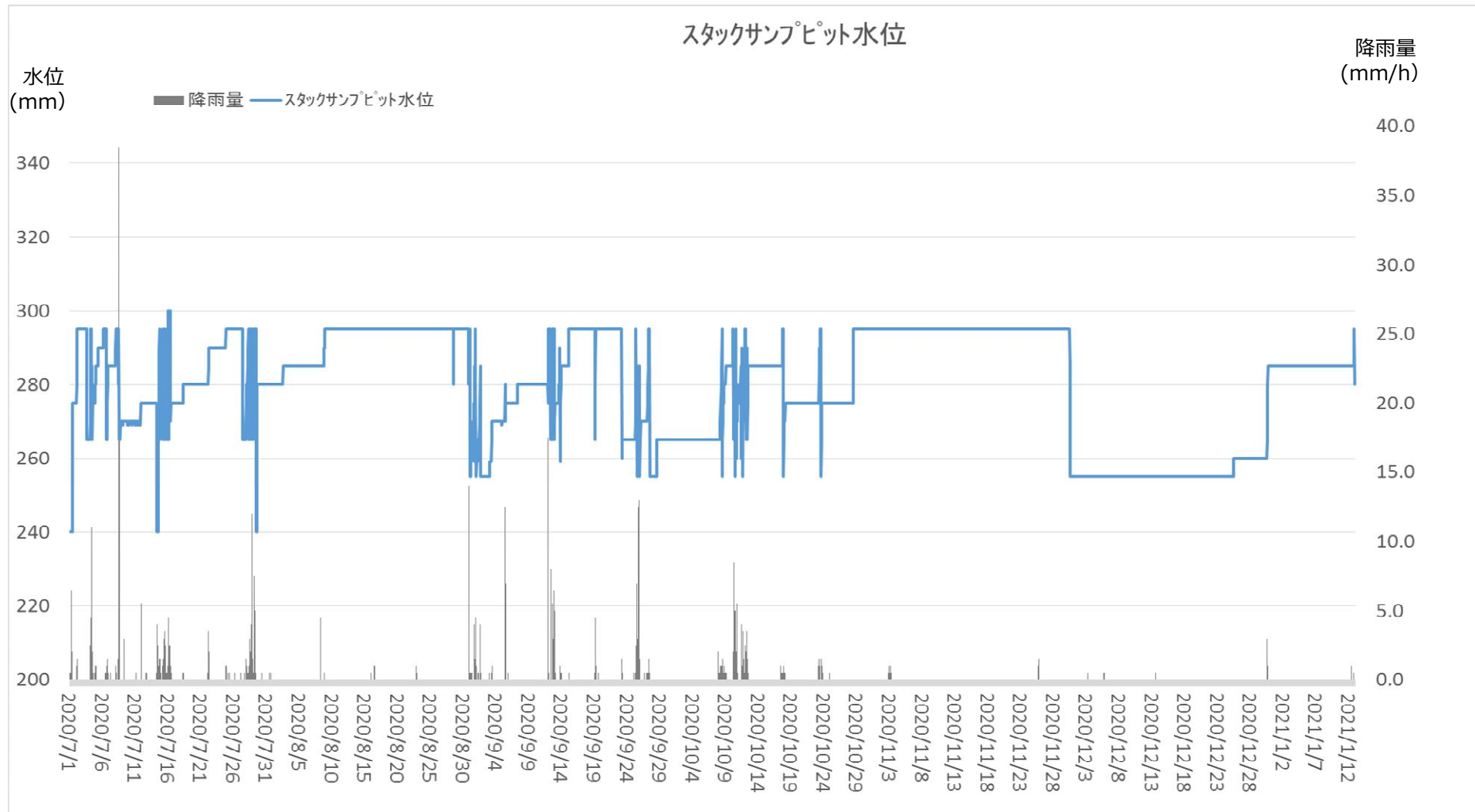
OG配管を伝って流入する雨水を防止する治具※を配管へ巻き付ける



施工について（被ばく低減対策）

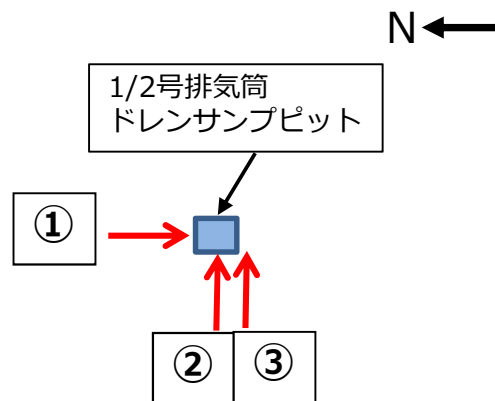
- ✓ 既設雨養生カバーをクレーンを用いて取外し、1/2号機西側道路で流入対策用カバーの取付けを行う。個人最大0.5mSv/日
- ✓ OG配管へ取付ける治具はクレーンを用いて遠隔で取付を行う。個人最大0.53mSv/日

<参考> 1 / 2号機排気筒ドレンサンプルピット水位 (2020.7~2021.1)



■ 現在ピット内水位については、通常通りの水位制御（300～260mm）を継続している。

<参考> 周辺の線量

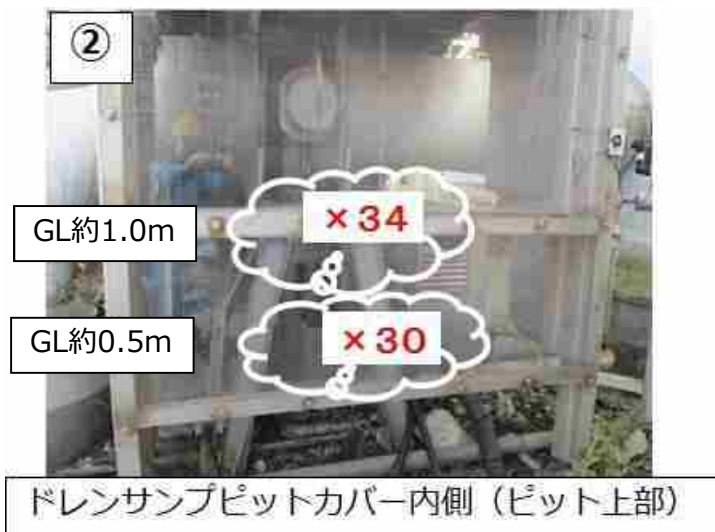


⊗ : 表面線量当量率[mSv/h]

× : 空間線量当量率[mSv/h]

2019.12.9測定

測定器
ホットスポットモニター
(テレテクター)



増設ALPS(B) クロスフローフィルタ不具合調査状況の経過報告

2021年1月29日



東京電力ホールディングス株式会社

1. 事象概要



- 2020年10月27日 増設ALPS(B)運転再開時にバッファタンク出口の水より、若干の白濁を確認した事象について、その後の原因調査状況を報告する。
- 増設ALPS(B)のCFF開放点検を実施したところ、フィルターエレメントの一部に損耗を確認した。フィルターエレメントは交換を行う予定。
- 今後も原因調査を継続していく。

今回の報告箇所 開放点検実施箇所 (B系CFF2B, 3B)



各CFF二次側ドレン水のCaイオン濃度測定結果

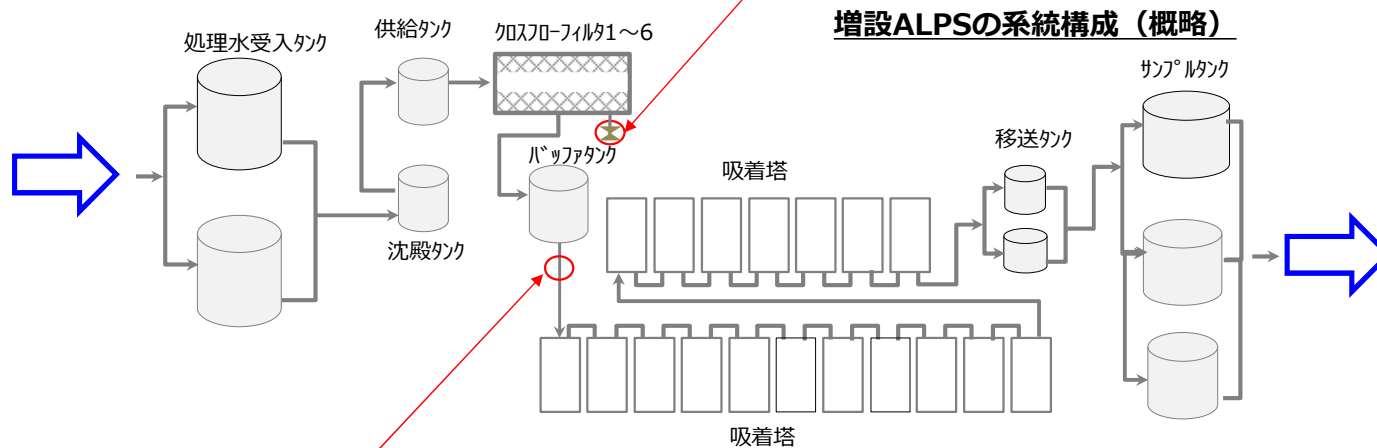
	CFF1	CFF2	CFF3	CFF4	CFF5	CFF6
A系(11/12)	11.3 ppm	2.2 ppm	34 ppm	2.7 ppm	2.8 ppm	173 ppm
B系(10/29)	3.6 ppm	250 ppm	260 ppm	72 ppm	1.6 ppm	7.7 ppm
C系(11/12)	2.1 ppm	2.3 ppm	2.5 ppm	5.2 ppm	1.7 ppm	1.3 ppm

2020.10末時点

	運転日数(170m3/日 換算値)
A系	750日相当
B系	800日相当
C系	620日相当

本日の報告箇所

点検に伴う採水箇所 (CFF二次側(ろ過側) ドレンライン)



通常運転時採水箇所 (バッファタンク出口) ※運転中1回/1日採取 ⇒概ね 1 ~ 2 ppm

A系 : 2.0ppm B系 : 4.0ppm C系 : 2.0ppm

バラつき多い

Ca濃度の判断目安
<10ppm

CFF2B,3B フィルターエレメント外観

- 全エレメントの上流部端面に損耗を確認した。エレメント下流部端面には損耗はない。

CFF2B
エレメント外観
(エレメント位置：D-5)

流れ方向 ↑

下流側端面
(エレメント位置：A-2)

損耗なし

上流側端面

有意な損耗あり

CFF3B
エレメント外観
(エレメント位置：E-6)

最も損耗が激しかった箇所

上流側端面

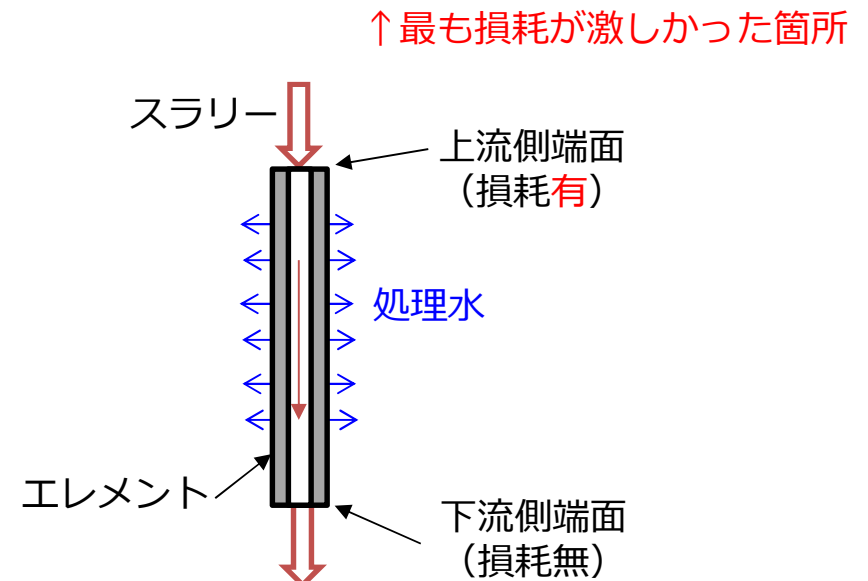
有意な損耗あり

流れ方向 ↓

1 2 3 4 5 6 7 A B C D E F G

フィルターエレメント ロケーション

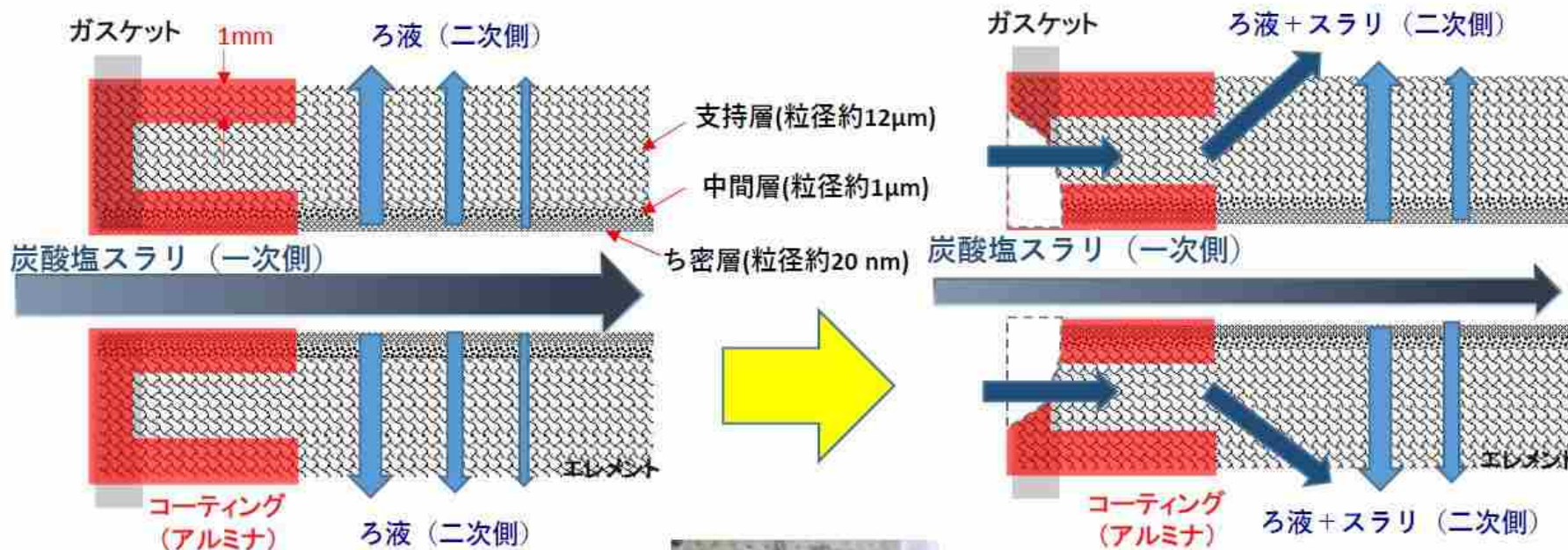
フィルターエレメント端面外観（前ページの写真を拡大）



スラリー流出の想定原因

【通常状態】
スラリーはち密層、中間層、支持層を透過することで、二次側にはろ液のみ流出する

【想定事象】
上流側端面（入口部）のエレメントが損耗し、同時にエレメント表面のコーティングも剥がれるため、その部分から支持層のみを透過してスラリーが二次側へ流出する



(参考) クロスフローフィルタ構造概要

